

平成30年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【	葛飾区	】
平成29年度に実施した取組の内容及び成果と課題		
<p>1. 事業の実施体制</p> <p>(1) 日本語指導員(4名) 日本語指導の経験がある者。日本語の初期指導、放課後指導、在籍校への連絡</p> <p>(2) 日本語支援員(4名) 日本語指導の経験がある有償ボランティア。日本語指導の補助、放課後指導の補助</p> <p>(3) 日本語指導コーディネーター(各校1名配置) にほんごステップアップ教室等との連絡調整</p> <p>(4) 通訳(20名) 該当児童・生徒の学校へ派遣し、授業、面談等に関する支援</p> <p>(5) 日本語指導検討委員会(有識者1名・委員11名) 有識者、関係各課、日本語学級設置校の校長等による指導内容検討</p>		
<p>2. 具体の取組内容</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="width: 30%;"> <p>葛飾区立総合教育センター</p> <p>教育相談 いじめ相談、教育に関する相談等</p> <p>教育支援センター 適応相談、学校訪問支援 適応指導教室 等</p> <p>特別支援教育事業 就学相談、専門家チーム派遣、 発達検査の実施 等</p> </div> <div style="width: 60%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>にほんごステップアップ教室</p> <p><役割></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 来日直後の児童・生徒、保護者の面接 ○ 日本語指導が必要な児童・生徒への初期指導(来所型)、 ○ 日本語の指導に使う教材、教具などの資料収集・閲覧 保護者向け文書等の翻訳等の支援 等 <p><指導体制></p> <p>日本語指導員(謝礼待遇)、日本語支援員(有償ボランティア)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; margin-top: 20px;"> <div style="width: 30%;"> <p>日本語学級(都認可)</p> <p><役割></p> <p>JSL カリキュラムに基づく各教科の授業に日本語で参加できる力の育成(ステージ3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教育課程」による日本語指導の実施 <p><設置校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・松上小学校、中之台小学校、新小岩中学校 <p><指導体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導担当教員 </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>連携・協力</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>小・中学校</p> <p><役割></p> <p>教科内容に関連した内容が理解できるようになり、授業にも興味をもって参加しようとする段階であり、必要に応じて支援を行う。(ステージ4・5・6)</p> <p><指導体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導コーディネーターに対して集合研修を行うことで、各校の専門性の向上を図る。 ・日本語指導コーディネーターを中心とした校内体制の充実を図る。 </div> </div> </div>		

3. 成果と課題

○成果

- ・日本語指導が必要な児童・生徒は増え、日本語指導コーディネーターを全校(小学校49校、中学校24校)に設置することで、児童生徒の情報交換が円滑に行え、来日直後や転入等で日本語指導が必要な児童・生徒に適切な指導を受ける機会が与えられた。
- ・来日直後等の児童生徒に日本語の初期指導を短期に集中して行い、在籍学級での日本語によるコミュニケーションができるようになり、日本の学校に早く慣れることができた。
- ・学期1回の日本語指導コーディネーター研修を実施することで、サバイバル日本語やDLAといった日本語指導方法、コーディネーターの役割について多くの教員や指導員が学ぶ機会になった。
- ・定期的に研修会を行うことで日本語指導関係者間の連携が図られた。

○課題

- ・日本語指導が必要な児童生徒がまだ在籍していない学校のコーディネーターは、指導方法等について実感がもてないので、研修を行っても必要性を感じない。
- ・日本語学級へ入級する児童生徒の数が想定以上に多く、にほんごステップアップ教室から移る際に十分対応できなかった。

4. その他(今後の取組等)

- ・現在日本語学級を設置している中学校は区の南部に1校のみなので、児童生徒が増える現状に対応するために、中央又は北部にもう1校設置する。
- ・日本語指導に関しての理解は広がってきたので、研修を日本語指導者と日本語コーディネーターと対象者を分け、それぞれの専門性を高めていく。
- ・日本語指導が必要な児童生徒が在籍している学級担任対象の研修も実施し、にほんごステップアップ教室、日本語学級での指導とつながりのある指導体制を構築する。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。)